

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門Ⅰ・基礎看護学	単位数・時間	1単位・30時間	教務課長
授業科目名	看護学概論	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
[概要] 看護学概論は、看護を学ぶ上での導入部分である。看護全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶとともに、自己の看護観、人間観を培い、看護専門職者としての自覚と責任を養う内容とする。				
[目標] 1. 看護の歴史的変遷、看護理論家による看護のとらえ方、看護職能団体による看護の定義を学び、看護の本質とは何かについて考える。《看護とは》 2. 看護の対象である人間を理解する。《人間とは》 （解剖生理学・病態生理、生理学・心理学的理論、成長発達理論、生活者としての人間の理解） 3. 看護の継続性と多職種連携・協働の重要性を理解する。 4. 健康とはなにか、障害とはなにかどう捉えるかを理解する。《健康とは》 5. わが国の看護職（看護師、准看護師、保健師、助産師）の資格と養成制度について学ぶ。 6. わが国の看護職者の就業状況と免許取得後の継続教育、「キャリア開発」について考える。 7. わが国の看護職者の養成と教育における問題点と課題を理解する。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1 2・3 4 5・6 7・8 9・10 11 ↓ 14 15	<p>《事前課題》 教科書の序論を読み、項目毎に内容をまとめ、看護が最も得意とするケアについてレポートする。</p> <p>看護とは 看護の本質 看護の変遷 ナイチンゲール誕生前後の世界の歴史、アメリカの看護</p> <p>看護の定義 看護のメタパラダイスについて</p> <p>看護の役割と機能</p> <p>看護の対象の理解</p> <p>国民の健康状態と生活 健康のとらえ方 健康の定義 《健康と環境》《健康に影響を及ぼす要因》《順応と適応》 《プライマリヘルスケア》《ヘルスプロモーション》 障害とはなにか 国民の健康状態と生活 統計的に健康を見る</p> <p>看護の提供者</p> <p>課題演習 フローレンス・ナイチンゲール 看護についての考え方 バージニア・ヘンダーソン 看護についての考え方</p> <p>課題発表 学科終了試験</p>			<p>個人ワーク・レポート</p> <p>講義</p> <p>グループワーク演習 DVD視聴</p>
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統別看護学講座 基礎看護学 看護学概論（医学書院）			筆記試験	
【参考文献】 看護覚え書（照林社） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版社）			課題への取り組み	
【実務経験と当該科目との関連】				
・臨床経験がある教務課長が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門Ⅰ・基礎看護学	単位数・時間	1単位・30時間	専任教員
授業科目名	基礎看護技術Ⅰ	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>目的：1. 准看護師課程で学んだ看護共通基本技術と日常生活援助技術について、知識・技術の確認と習得を行う。</p> <p>2. 基礎看護技術の学習、実践を通して、看護に対する自己の姿勢を振り返る。</p> <p>目標：1. 看護共通基本技術・日常生活援助技術について学ぶことができる。</p> <p>2. 1で示した技術についての基本的な手順を確認することができる。</p> <p>3. 対象の安全・安楽のための援助方法がとれる。</p> <p>4. 援助を通して、対象との良いコミュニケーションが図れる。</p> <p>5. 対象のプライバシーを考慮できる。</p> <p>6. 看護者の動作の経済性（ボディメカニクス）を考え援助できる。</p> <p>7. 清潔・不潔に配慮した援助ができる。</p> <p>8. 対象の反応に注意を向けながら援助できる。</p> <p>9. 必要な援助を具体的に計画することができる。</p> <p>10. 看護者としての態度（挨拶・言葉使い・身だしなみ）と尊重する態度がある。</p> <p>11. 援助を振り返り、適切に自己評価できる。</p>				
授業回数	【授業内容】			
1	オリエンテーション 洗髪（ボディメカニクス含む）の援助計画記入			
2	使用物品の配置についてのGW 洗髪デモンストレーション			
3	ボディメカニクス演習（DVD視聴）			
4	洗髪演習			
5	バイタルサイン・背部清拭演習			
6				
7	口腔ケア 講義			
8	車椅子移乗・座位での足浴演習			
9				
10	筆記試験（90分）			
11	技術試験（試験及び振り返り以外は自己学習時間）			
12				
13				
14				
15	基礎看護技術Ⅰまとめ（GW/発表）			
【使用テキスト】			【単位認定方法】	
医学書院 系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ			・総合点60点以上で合格。 ・不合格の場合再試験実施（70点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）	
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野	専門Ⅰ・基礎看護学	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師2名 専任教員
授業科目名	基礎看護技術Ⅱ	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
目的：既習した診療に伴う援助技術について、安全を考慮した知識・技術の必要性を理解し、より実践に即した技術を				
目標：1. 安全面を踏まえた上での診療に伴う援助技術（呼吸・循環、創傷管理、与薬、救命救急、感染防止、侵襲処置）について、知識を再確認できる。				
2. 演習を通して、診療に伴う援助技術の実践ができる。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A-1	1	・皮膚の構造、創傷治癒過程とそのメカニズム、創傷の治癒形態を理解する。		講義
	2	・褥瘡の発生機序、褥瘡の好発部位について学ぶ。 ・褥瘡予防に対する援助の実際を知る。 ・薬剤の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を理解する。		講義 小テスト
	3	・褥瘡予防に対する援助の実際を知る。（演習） ・包帯法について理解する。（演習）		講義 小テスト
	4	・与薬における、正しい投与方法について理解し、援助の実際を知る。 ※筋注くんを使用し、解剖を理解した上で、正しい筋肉注射を理解する。		
	5	・映像を見ながら、与薬（注射・輸血）について理解する。 ・与薬における注意点を理解し、安全について考える。		講義
A-2	1	1.感染予防の基礎知識 感染の定義、医療関連感染、標準予防策（スタンダードプリコーション）・感染経路別予防策、感染性廃棄物の取り扱いなど 2.医療現場における洗浄・消毒・滅菌 3.カテーテル関連血流感染対策		講義
	2	1.スタンダードプリコーション演習 1) 手洗い検証 2) 個人防護具の着脱 2.医療従事者における職業感性対策 針刺し切創・血液体液曝露予防策、ワクチンなど		演習 講義
B	1	救命救急処置の基礎知識 ①救急対応の考え方と急変時における初期対応 ②トリアージ		講義
	2	心肺蘇生法 ①心肺蘇生法（小児・乳児含む）の基礎知識 ②一次救命処置の実際と二次救命処置について 止血法 ①援助の基礎知識と援助の実際 院内急変時の対応		
	3	検査・処置の介助 X線撮影・CT・MRI・内視鏡・超音波・心電図・肺機能検査・核医学検査		講義
	4	検査・処置の介助 穿刺 ①穿刺の種類（検査の目的と援助の実際） 呼吸を整える処置 ①胸腔ドレナージ ②吸入		演習
C	1	呼吸・循環を整える技術 ☆酸素吸入療法 ・酸素療法の目的、適応、種類、方法、必要物品 ・酸素供給システム（中央配管方式、酸素ボンベ）の取り扱いと酸素流量計の見方、酸素残量の計算方法 ・酸素投与時の観察ポイント、根拠、注意事項 ・起こりうる事故とその対策について（CO ₂ ナルコーシス、保清・整容時の急変、接続・回路トラブル等、事例をもとに）		講義 動画視聴
	2	呼吸・循環を整える技術 ☆気道内吸引 ・気道内吸引、口腔・鼻腔吸引の目的、適応、種類、方法、必要物品 ・吸引カテーテル挿入時の注意点と扱い方 ・吸引時の観察ポイント、根拠、注意事項 ・起こりうる事故とその対策について（PaO ₂ ・SpO ₂ 低下、吸引圧のかけすぎ等、事例をもとに）		デモンストレーション
	3	食事援助技術 ☆経管栄養法 ・経鼻、胃婇、腸瘻の目的、適応、方法、合併症 ・胃管挿入、栄養剤注入時の必要物品、体位、チューブの扱い方 ・経管栄養法実地中の観察ポイント、根拠、注意事項 ・起こりうる事故とその対策について（自己抜去、誤嚥、下痢、接続・回路トラブル、誤注入等、事例をもとに）		物品の実物、モデル人形等での手技の確認
	15	学科終了試験		
【使用テキスト】		【単位認定方法】		
医学書院 系看護専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医療安全ワークブック		評価；単元A 50%、単元B 30%、単元C 20% ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験）60点以上で合格。 ・不合格の場合再試験実施（70点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。 (次年度、再取得)		
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員と実務経験がある看護師、看護師・保健師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門Ⅰ・基礎看護学	単位数・時間	1単位・30時間	専任教員
授業科目名	基礎看護学方法Ⅰ	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療におけるコミュニケーション目的・方法について理解する。 2. コミュニケーションの演習や体験学習を通し、感性を刺激し合い、看護師に求められる技術や姿勢態度を養う。 3. ヘルスアセスメントの中のフィジカルアセスメントについて、目的・方法・評価について理解する。 <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療におけるコミュニケーションの目的、構成要素、影響する因子を理解することができる。 2. 医療（看護）コミュニケーションのうち、接近的行動、質問、傾聴、共感、説明、報告の技術の目的・方法・留意点を理解することができる。 3. 演習や体験学習を通して、看護師に求められる能力（アセスメント力・臨床判断能力・応用力）や態度（規律性・主体性・柔軟性・実行性・働きかけ）の基盤を養うことができる。 4. コミュニケーション障害がある人への対応のポイントを述べることができる。 5. ヘルスアセスメント及びフィジカルアセスメントの定義・目的・方法について理解することができる。 6. 症状別の事例について、基礎的なフィジカルアセスメント（問診・意識レベル・呼吸音聴取・腸蠕動音聴取・運動機能の観察・神経系の評価）の演習を通し、推論技術につなげる基盤を養うことができる。 7. プロセスレコード、省察（リフレクション）の考え方の基本を学ぶことができる。 				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	○本単位の位置づけ ○コミュニケーションの技術 [1] ・コミュニケーションの意義と目的 ・コミュニケーションの構成要素と成立過程 ・コミュニケーション			講義
2	○コミュニケーションの技術 [2] 関係構築のためのコミュニケーションの基本 ・接近的コミュニケーションの原理			演習
3	○フィジカルアセスメント [1] ・ヘルスアセスメント及びフィジカルアセスメント ・フィジカルイグザミネーションの定義と目的・方法 ・問診 ・全体の概観			講義
4	○フィジカルアセスメント [2] ・バイタルサインのアセスメント ・呼吸器系フィジカルアセスメント			講義
5	○フィジカルアセスメント [3] ・バイタルサインのアセスメント（脈拍・血圧） ・循環器系フィジカルアセスメント（高血圧・低血圧）			講義
6	○フィジカルアセスメント [4] ・バイタルサインのアセスメント（発熱・高体温）			講義
7	○コミュニケーションの技術 [3] 効果的なコミュニケーションの実際 ・接近的行動の前提となる基本的な態度 ・専門的援助関係を支える援助者の態度条件（自己一致/無条件の肯定的配慮/共感的理解） ・プロセスレコード			講義
8～10	○コミュニケーションの技術 [4] ～ [6] ・自己開示、自己理解、他者理解 他 ・質問技法、傾聴 他 ・リフレクション			GW
11	○フィジカルアセスメント [5] ・意識レベル ・神経系のフィジカルアセスメント ・頭頸部、感覚器、外皮系のフィジカルアセスメント			講義 演習
12	○コミュニケーションの技術 [7] コミュニケーション障害のある患者の看護 ・聴力障害 ・構音障害 ・失語症 ・意識障害 ・認知症			講義 GW
13	○フィジカルアセスメント [6] ・運動器系のフィジカルアセスメント			講義 演習
14	○フィジカルアセスメント [7] ・消化器系のフィジカルアセスメントの実際「腹痛」 ・ヘルスアセスメントのまとめ			講義 演習
15	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)		・学科終了試験60%、レポート課題30%、 講義・演習への参加態度10% 60点以上で合格。		
【実務経験と当該科目との関連】		・不合格の場合再試験実施（70点以上合格）		
・臨床経験がある専任教員が担当		・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。（次年度、再取得）		

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅰ・基礎看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員
授業科目名	基礎看護学方法Ⅱ	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>目的: 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。</p> <p>2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について学ぶ。</p> <p>3. 看護過程の各段階についてその基本的な考え方と実際を学ぶ。</p> <p>4. 看護記録の目的・管理・構成要素について学ぶ。</p> <p>5. 課題事例を通して、看護過程の展開の実際（アセスメントから、問題リスト作成まで）を行う。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	<p>1) 看護過程とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つの構成要素 ・構成要素の関連性 ・看護過程を用いることの利点 <p>2) 看護過程を展開する際に基盤となる考え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決過程 ・クリティカルシンキング ・病態関連図 ・倫理的配慮と価値判断 ・リフレクション <p>3) アセスメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集とは ・情報収集の方法 ・情報収集計画書 ・情報の分析 ・16項目のフレームワークについて ・アセスメント結論 <p>4) 全体像の把握について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連図 ・全体像 <p>5) 看護問題の明確化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護問題の見極め ・看護問題 ・看護診断 ・看護問題の種類 ・看護問題の表記の方法 ・看護問題の優先順位 ・協働問題という考え方 <p>6) 看護計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待される成果の明確化 ・看護計画の立案 ・患者の個別性 ・看護計画の表記 <p>7) 実施とその評価・記録について</p> <p>実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画を実施に移す手順 ・実施後の評価 ・プロセスレコード ・フローシート ・経過記録 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の方法 ・目的達成の判定、追加、修正 ・看護サマリー <p>8) 看護記録について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護記録とは ・看護記録の法的な位置づけ ・看護記録の目的と機能 ・記載管理の留意点 ・電子カルテ ・看護記録の構成 			講義 個人ワーク
15	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルパス ・標準看護計画 ・NANDA-Iの看護診断 			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
系看護専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）		<ul style="list-style-type: none"> ・学科終了試験 50%、看護過程の展開 45%、提出物 5% 60点以上で合格。 ・不合格の場合再試験実施（70点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 (次年度、再取得) 		
【実務経験と当該科目との関連】				
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床経験がある専任教員が担当 				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野	専門Ⅰ・基礎看護学	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師
授業科目名	臨床看護総論	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>目的：看護の基本としてさまざまな健康上のニーズを持つあらゆる年齢層を対象として、既習の基本的な看護の考え方や知識・技術を統合して応用するプロセスや看護の実際・実践を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象を、健康上のニーズを持つ生活者とその家族として理解できる。 2. 経過に基づく看護の対象を理解し、アセスメントと援助の方法を学ぶ。 3. 治療・処置を受けている看護の対象を理解し、アセスメントと援助の方法を学ぶ。 4. 医療用機器の原理と実際を知ることができる。 5. 各対象に応じた指導的活動について学ぶことができる。 6. 看護における指導・教育的機能・目的について理解することができる。 				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	第1章 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護 A. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ			講義
2	B. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ C. 人々の暮らしからとらえた健康上のニーズとケアサービスの拠点			講義・GW
3	第2章 健康状態の経過に基づく看護 A. 健康状態と看護 B. 健康の維持・増進を旨とする時期の看護の特徴			講義・GW
4	C. 急性期における看護			講義・GW
5	D. 回復期における看護			講義・GW
6	E. 慢性期における看護			講義・GW
7	F. 終末期における看護			講義・GW
8	第4章 治療・処置を受ける対象者への看護 A. 輸液療法を受ける対象者への看護 B. 化学療法を受ける対象者への看護			講義・GW
9	C. 放射線療法を受ける対象者への看護 D. 手術療法を受ける対象者への看護			講義・GW
10	E. 集中治療を受ける対象者への看護			講義・GW
11	F. 創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 G. 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護 付章 A B C			講義・GW
12	基礎看護技術Ⅰ / 第6章 学習支援			GW
13	↓			GW
14	↓ 発表 まとめ			講義・GW
15	基礎看護技術Ⅰまとめ（GW/発表）			
【使用テキスト】			【単位認定方法】	
医学書院 系看専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護技術Ⅰ			・学科終了試験 90%、出席・参加状況 10% 総合点60点以上で合格。 ・不合格の場合再試験実施（70点以上合格）	
【実務経験と当該科目との関連】			・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）	
・実務経験がある保健師が担当				